

10月1日から 緊急地震速報を発信します

市では、今年度、全国瞬時警報システム (J-ALERT) を整備し、さまざまな緊急情報を防災行政無線から市民のみなさんに発信できるようになりました。

その機能の一つとして、10月1日から防災行政無線を通じて緊急地震速報を発信します。

ここでは、緊急地震速報の内容や特性、発信された場合の心得などについてお知らせします。

総務課防災対策室 ☎ 1118

チャイム(警報音)+

おお おお
「大地震です。大地震です。強い揺れに警戒してください」

というメッセージを3回繰り返します。

※鳥羽市に震度5弱以上の地震の発生が予想される場合に、防災行政無線から放送されます。

緊急地震速報とは？

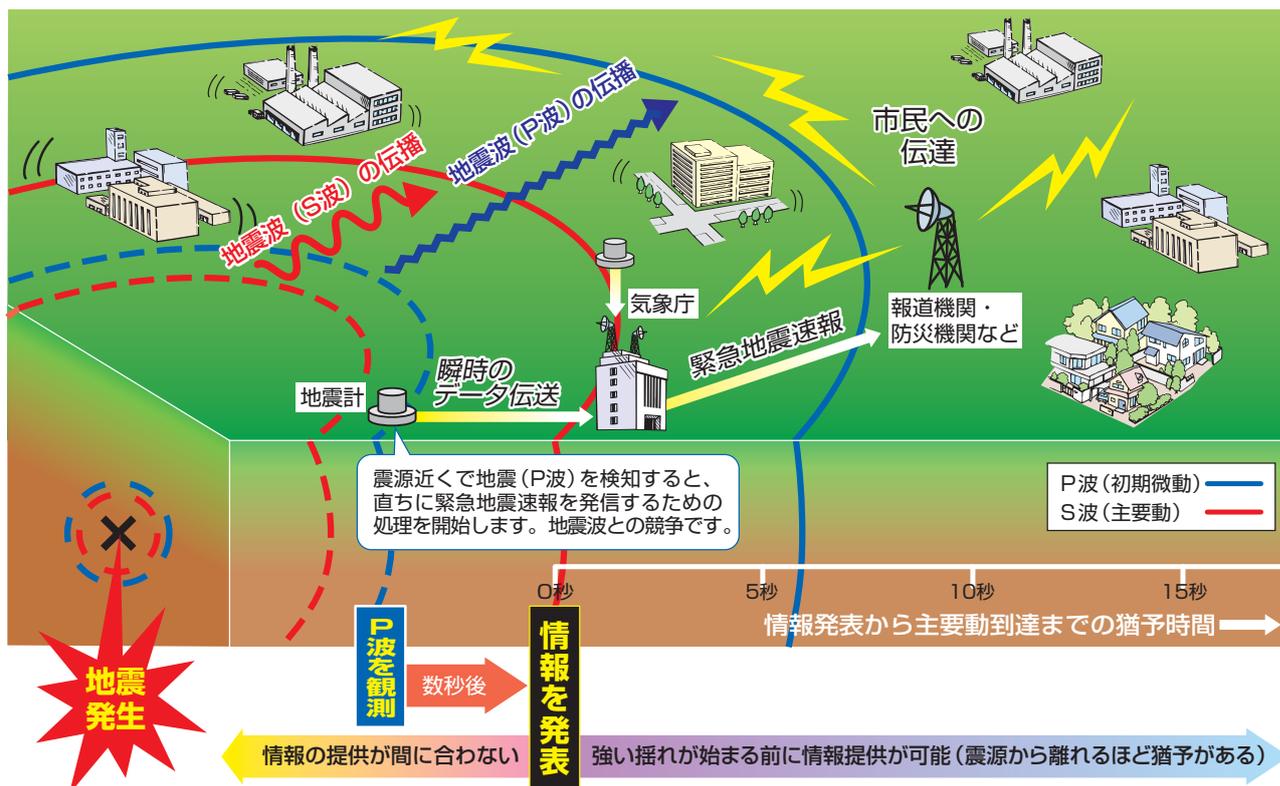
地震の揺れは、2種類の地震波 (P波とS波) によって伝わり、最初に小さな揺れ (P波) が伝わり、次に強い揺れ (S波) が伝わります。地震による被害は、主にS波によってたらされます。

緊急地震速報は、このP波とS波の伝わる時間差を利用して、地震の発生や規模を素早く測定し、地震による強い揺れが始まる数秒から数十秒前にお知らせするものです。

(下図参照)
情報が流れたら、強い揺れが始まる前に机の下に隠れるなどの行動を取ることで、被害の軽減に役立つことが期待されています。

ただし、震源が近い場合は、緊急地震速報が揺れに間に合わない場合があります。

緊急地震速報のしくみ



(気象庁の緊急地震速報リーフレットより)

緊急地震速報の特性

緊急地震速報が市民のみなさんに発信されてから、強い揺れが来るまでの時間は、数秒から数十秒であると予想されます。緊急地震速報を適切に活用するために、次のような特性（限界）があることに注意してください。

- 内陸の浅い地震（直下型地震）などの場合には、情報の発信が大きな揺れの前に間に合わない場合があります。
- 気象庁の緊急地震速報を受信してから、防災行政無線が自動起動するまでに一定の時間を要するため、市民への情報発信が大きな揺れの前に間に合わない場合があります。

に合わない場合があります。● 場合により、誤報が発信される可能性があります。（誤報の場合には、その旨をお知らせします）

緊急地震速報が放送されたら

基本は、「慌てずにまず身の安全を確保する」

緊急地震速報は、地震が発生してから強い揺れが来るまでのごく短い時間を活用して、地震による被害を軽減しようとする情報です。

緊急地震速報が放送された場合には「周囲の状況に応じて、慌てずに、まず身の安全を確保する」ことが基本とな

ります。さまざまな場面に応じた行動パターンを表1に例示しましたので、参考にしてください。

身を守る方法を日ごろから考えておきましょう

地震被害の軽減を図るためには、緊急地震速報が発表された場合の自らの身を守る方法について、日ごろから考えておくことが最も重要で大切なことです。

また、家具の転倒防止対策や、津波に対する避難路や避難場所の確認なども大切です。緊急地震速報の配信開始を機に、ぜひ一度ご家族で話し合ってみてください。

表 1

緊急地震速報が放送されたら

家庭では

- ・頭を保護し、丈夫な机の下などに隠れる
- ・慌てて外へ飛び出さない

屋外では（街や住宅地）

- ・ブロック塀の倒壊などに注意する
- ・看板や割れたガラスの落下に注意し、そばから離れる

人が大勢いる施設では

- ・係員の指示に従う
- ・慌てて出口に走り出さない

自動車運転中

- ・慌てて急ブレーキをかけない
- ・ハザードランプを点灯し、ゆっくり停止する

電車・バス乗車中

- ・つり革、手すりにしっかりつかまる

山やがけ付近では

- ・落石やがけ崩れに注意する

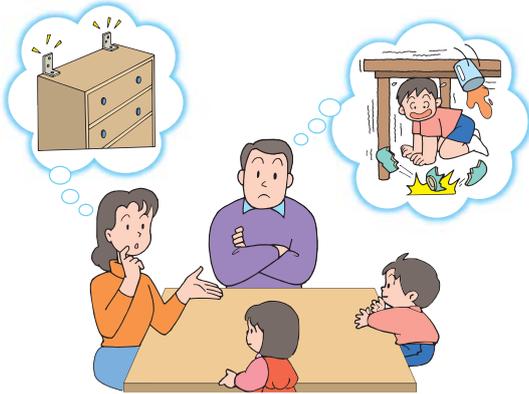


表 2 全国瞬時警報システムは、緊急地震速報以外にも次のような情報をお伝えします。

	事 象	サイレンパターン	音声放送
津波関連	大津波警報	3秒吹鳴・2秒休止	定例文 × 2回
	津波警報	5秒吹鳴・6秒休止	
	津波注意報	10秒吹鳴	
	津波注警報解除	上り4音チャイム	
	誤報		
	誤報（緊急地震速報）	上り4音チャイム	定例文 × 2回
震度速報関連	震度4	上り4音チャイム	定例文 × 2回
	震度5弱		
	震度5強		
	震度6弱以上		
	誤報		
国民保護関連	ゲリラ等における警報	14秒吹鳴	定例文 × 3回
	航空攻撃等における警報		
	弾道ミサイルにおける警報		
	大規模テロにおける警報		
	誤報	上り4音チャイム	定例文 × 2回